



何のために・・・？

校 長 清水 一司

「何のために学ぶのか？」

2学期の始まりに際して、改めてこのことについて考えてみたいと思います。

私は音楽教員です。駆け出しの教員の頃、生徒からよく「音楽を勉強して何の役に立つのですか？」「音楽は受験に関係ないでしょ。」と言われました。中学校の大きな役割に進路決定がありますが、ほとんどの生徒にとって音楽は受験科目にありません。音楽があると心が豊かになることは間違いありませんが、音楽がなくても生きていくことはできます。多くの中学生にとって、音楽を学ぶことの意味が理解しにくいことは仕方ないことなのかもしれません。

中学校数学では二次関数を学びます。数学は受験科目に含まれるものの、二次関数のような高度な数学を実生活で必要とする場面は頻繁にありません。この意味では、多くの中学生にとって数学も学ぶことの意味が理解しにくいことになりやすいでしょう。他の教科でも同様のことは言えます。

どうやら生徒の多くは、「これを学べばテストの点数が上がる（偏差値が上がる）。」「これを学べば自分に利益がある。」など、学ぶことに対価を求めているように思えます。これは、学ぶことへの動機づけを学習内容そのものではなく、受験に求めがちな我々教育者の責任でもあると反省しています。

神戸女学院大学名誉教授で思想家の内田樹氏は「『学ぶ』とは『何のためにそれを学ぶのか』を言うことができない段階から、それが言えるようになる段階への『命がけの飛躍』のことである。」と言っています。かみ砕いて言えば、「学ぶことの意味が分からない者が、学ぶことの意味を理解するために学ぶのである。」ということでしょう。

「何のために学ぶのか？」…この答えは学んだ者、やった者にしかわからないものなのでしょう。

さて、夏季休業中も陸上競技部の全国大会及び関東大会出場、女子バレーボール部の関東大会出場、男子ソフトテニス部、柔道部、吹奏楽部の県大会出場と、本校生徒は目覚ましい活躍を見せてくれました。日ごろの努力が成果となったことを大いに称えたいと思います。

部活動は勝利することだけが価値あることとは思っていません。目標に向かって努力する過程にこそ価値があると考えています。今回、全国大会や関東大会に出場した生徒はもちろん、市内大会で涙を飲んだ生徒やコンクール等で賞から漏れた生徒も、それぞれが目標に向かって努力してきたはずです。部活動に打ち込んだ経験は、必ず力になっているはずです。

「何のために部活動に打ち込むのか？」…この答えもまた、部活動に打ち込んだ者、やった者にしかわからないものなのでしょう。